

番外 学習辞書の作成

A・S・ホーンビー英辞12〜14
パーマーは、その主な役割を終えると、昭和11年、イギリスに帰国しました。そのパーマーの後を受け、師範学校で教鞭をとりながら、まったく新しい辞書をつくったのは、アルバート・シドニー・ホーンビーです。

A・S・ホーンビーは、1898年、イギリスのチェスターで生まれ、英国海軍に勤めた後、ロンドン大学に入学し、英語英文学の学位を取得しました。そのころ、ロンドンを訪問していた若い日本人と会い、九州の大分高等商業学校で英語を教えることが決まり、1924年、妻のアイダ・ルイズとともに日本へ向かいました。日本に来て教え始めると、ホーンビーは、英文学を教えるために雇われたにもかかわらず、すぐさま、ことばそのものを教えなければならぬと思ひ、パーマーのつくった英語教授研究所の会員となり、日本の英語教育の改革のために、パーマーの活動を支えるようになりまし。このことをホーンビーは、次のように述べています。「クラスの生徒を前にしていた。・そして彼らは英文学を語っているのだった。・私ほもって語学教育に集中し、文学の授業は日本人の先生に任せなければならぬ。」

パーマーの活動を支えていたホーンビーは、1934年、東京に呼ばれ、東京外国語学校（現東京外国語大学）と東京高等師範学校の兼職教授となり、附属中学校でも教えました。パーマーが昭和11年、日本を去るにあたって、英語教授研究所の所長は、東京文理科大学の石川林四郎が任命されましたが、事実上の研究チームの長には、ホーンビーがあたりました。その後、ホーンビーは、太平洋戦争が始まると、交換船に乗せられ、外交官たちとともに、イギリスへ帰還させられました。しかし、戦後になるとたびたび日本を訪れ、日本の英語教育に助言をしました。

ところで、ホーンビーの日本の英語教育に関する最大の貢献は、英英辞書の作成にあるといわれています。

それは、「パーマーが研究をした連語も文型の調査を整理し、昭和17年に英英辞典を刊行した。この辞典は多くの特色を持つたもので、それ以来、日本の英語教育において必須のものとなっている。たとえば、可算名詞と不可算名詞の区別をつけ、動詞には、意味に応じて文型をあげてある。この辞典はもともと日本人のために編集されたものであるから、ふつうの英英辞書にみることのできない多くの長所をもっている。戦後に出版された日本の英語辞書で、このホーンビー辞典を利用し活用していないものはないほどである。ホーンビー辞典はさらに1963年に改訂され、『現代英英辞典』となり、さらに利用しやすくなっている。」（大村卓吉著『日本の英語教育史』大修館 1975より）といわれている。このからもわかります。

A・P・カウイー著『学習英英辞書の歴史』研究社 2003 福田隆太郎著『くたびか夏過ぎて』ドルフィンプレス社 1985

38 戦後英語教育の再出発

池永 勝雅 在職16〜33 東大教授
昭和24年から25年にかけて、

東京高師附中新教育研究会編で、『新制中学研究叢書 全十巻』（日本教育振興会発行）が計画され、そのうちの六巻までは実際に各教科のそれが発刊されていることがわかっていました。そのうちの第4巻が、『外国語科（英語）』です。このような企画がなされ、かつ、実際に発刊された理由は、戦後の混乱の中で、各教科が、新制の中学においてどのような授業をして良いか、その道筋を示すために附属中の教官の総力をあげて取り組んだものと思われま。その中で、戦中に教官となり、戦後も引き続き中学校の教官を勤めた池永は、その著書の中で、「第一学年及び第二学年の取り扱い方」という論文を著しています。それを読むと、「英語教育は最初が大切であり、全く未知な外国語に接して生徒は奇異の念にかられ、容易に馴染めない。・本書は初歩の取り扱い方から漸次各学年の取り扱いに及びその全貌を明らかにした。」と述べています。この研究叢書は、池永を初め

として、戦後附属中教官の意気込みと研究の水準の高さを示してあまりあるものです。もう一度それぞれの教科の中身を見て見なければならぬいものです。

39 『新々英語教授法』

星山 三郎在職21〜23 名古屋大教授
戦後になって初めて附属中学の英語教官として着任したのは、星山三郎です。星山も、池永と同じように、新制中学の英語のあり方を研究発表していますが、池永が戦中からの教官であったのに比し、星山は全くの戦後教官らしく、パーマーの「新々英語教授法」を乗り越えるべく『新々英語教授法』の実践に取り組んでいます。それは、アメリカのフリーズの唱えた「オーラル・アプローチ」の実践や、生徒に対して調査しながらの学習改善法の研究などです。星山の著書には、昭和21年の附属中学生徒に対する調査結果も載せられています。

何事も新しくなった戦後教育です。

291

付 録

英語教育に対する希望
(昭和21年10月調査)
東京高師附属中学二、三年生 130名

生徒	
1. 英会話がやりたい	40
2. 文法をやって欲しい	36
3. 単語の発音をはっきり知りたい*	38
4. 単語の意味をはっきり知りたい*	30
5. 解釈を十分やって頂きたい*	14
6. 教科書以外のものを(インソップ物語や其他童話等)	3
7. 進度をゆっくり願いたい*	15
8. 米英語の相違を知りたい	8
	5

備考 *印「生徒の希望」には、今習っている授業をどうしてくれという方が大きい。
*印の大部分は「オーラル・メソッド」への注文とも見られる。逆に父兄は、

34
中学三年生の保護者の希望調査ものっています。
星山三郎著 『新々英語教授法』金子書房 昭和

